

## 令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（乾隆幼稚園）

### 教育目標

心身ともに健やかで生き生きとした子どもの育成

### 年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

- ・コロナ禍、スタートが2ヶ月以上遅れたことは、幼稚園児にとってとても大きな空白であったと思う。新しい生活様式の中、保育が再開されたが、1学期に育ってほしい力が、2学期に持ち越された1年であった。
- ・保育の中では、身近な環境に関わり、夢中になって遊ぶ子どもたちを目指し取り組んできた。期待すべき時に、子ども像に近づけなかつたかもしれないが、しっかり体を動かす遊びを通し、他者との関わりの中で楽しく遊ぶ姿も見られるようになってきた。
- ・今後も、子ども一人一人から見取り、主体的に遊ぶ姿、自己肯定感を育て、心身ともに健やかで生き生きとした子どもを育てるよう努めたい。少人数の園として、異年齢の活動にも力を入れていきたいと考える。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・“夢中になって遊び込む”ことで就学前の土台づくりをするという公立幼稚園の保育はとても良いと思う。園庭に露地栽培の野菜などを育て、季節を感じる環境であること、古い施設であるけれど、いつもきれいに保守していること、地域の中の幼稚園としての取組をしていること等々、今後も続けてもらいたい。
- ・教職員が少人数の子どもたち一人一人を丁寧に見ているが、園児数を増やす手立てを考えていかなければならない。子育て支援の取組に力を入れたり、預かり保育を充実したり、市立幼稚園として考えていると聞いているが、できることがあれば自分たちも協力したい。

### 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月26日	学校運営協議会 理事
最終評価	3月 8日	学校運営協議会 理事

### （1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

#### 具体的な取組

- 子どもが心身ともに健やかに育つための安全安心な環境づくりを絶えず見直し、改善を図る。
- 子どもが夢中になって遊び、自分の力を發揮し、友達と関わる楽しさや協働する喜びを感じるための教員の援助や環境構成を行う。
- 保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、園内研修を充実する。
- 子ども一人一人へのねらいをもち計画性をもった保育と子どもの姿から一日の保育を振り返り、改善していくP D C Aサイクルの確立（週案・個別の指導計画等の活用）。

(取組結果を検証する) 各種指標
○ 幼児の姿の変容、事例検討
○ アンケート項目①「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っている」②「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられている」⑧「子どもは楽しく幼稚園に通っている」⑨「子どもは今夢中になっているものがある」

## 中間評価

自己評価	(各種指標結果)
	・本年度は、4、5月の臨時休業、取組内容の変更により、例年に比べて伸びの考察、検証ができるていない。コロナ禍の中、できる保育を手探りで行ってきた。
	・アンケート結果 ①A・B 97% C 3% ②A・B 97% C 3% ⑧A・B 95% C 5% ⑨A・B 97% C 3%
分析 (成果と課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業中に遊具の補修や園内の整備がいつもよりできた。露地野菜の栽培は続けていたが、収穫ができないままのものや例年できている収穫したものを全員で食べるということはできなかつた。</li> <li>・休業中できなかつたことも多くあり、園が再開され、子どもたちは園生活を楽しんでいる。ただ100%ではないので、楽しめていない子どもの理由を探る必要がある。</li> <li>・園内研修や週案の活用については意識できている。時間の取り方に課題がある。</li> </ul>
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大予防の新しい日常は今後もしばらく続くと思われる。日本や京都の状況を鑑みて、計画を変更しながらも、より子どもたちに有効な保育を取り組んでいきたい。また環境整備は一年間継続して行う。</li> <li>・保育を振り返り話し合う時間、個々の子どもたちについての話し合いの時間を確保する。</li> </ul>
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期に育てるべき力を共通理解し、そのための適切な援助や環境構成をする。</li> <li>・保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り</li> </ul>
学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナについて、不安な保護者がいるので取組は慎重になるのは当然である。その中で考えた取組をしていると思う。環境整備は続けてもらいたい。</li> <li>・リーフレット等で京都市立幼稚園の取組についてよく理解できる。幼稚園で夢中になって遊ぶことを通じて、「自覺的な学び」の土台づくりを今後も推進してほしい。</li> </ul>

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・感染対策は継続しつつ、保育については軌道にのった。特に多くの行事については大幅な変更を余儀なくされたが、できる中の最善を選び実施することができた。露地栽培の作物を育て、季節ごとのイベントはできる形でもつことができた。	
・コロナの感染対策が良かったのか、欠席が例年より少なく、また、新しい生活様式にも慣れて、後半は例年のようにのびのびと遊ぶ姿が見られるようになった。	
自己評評	・アンケート結果 ①A・B 100% C 0% ②A・B 97% C 3% ⑧A・B 100% C 0% ⑨A・B 94% C 6%
	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題
	・様々な取組について、状況をみたり保護者や地域の方のご意見を聞いたりしながら、よりできる中で子どもたちにとって効果的な保育はないのかを探ってきたので、子どもたちの成長につな

価 値	<p>がる保育ができたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の子どもを軸にした話し合いは、もてたが対外的な研修についてはオンラインが多く、回数も減った。教職員の力量アップは次年度の課題として考えたい。</li> <li>・環境整備は思った以上に進んだ。安全安心の環境については次年度も優先項目と考えたい。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策は継続しつつ、できる保育内容を見直しながら、夢中になって遊び込める環境構成については、研修を深めて実践していきたいと思う。</li> <li>・子どもたちの数は少なくなってきたので、他者との関わりの中で、楽しく遊び育つように異年齢の取組も推進していきたい。</li> <li>・環境整備を継続すると共に、教職員の研修はできる所から確実に進めていきたい。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園が四季を味わう作物づくりをしているのが良いと思う。稲作から、脱穀、粒摺りなどをしてもちつきをして、最後には藁でしめ飾りをつくったのは、面白い取組である。</li> <li>・園児数を増やすことは、制度面が大きいが、保育内容の充実は根本である。公立幼稚園の良さを今後も伸ばしていってもらいたい。また、環境整備に力を入れていることも園児獲得につながるのではないかと思うので是非継続してもらいたい。</li> </ul>

## (2) 幼小連携・接続に関して

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 乾隆小学校、紫野小学校との連携、交流を通して教員の相互理解を図り、幼小の円滑な接続を推進する。(交流のための年間計画)</li> <li>○ 乾隆小学校、紫野小学校、西陣中央小学校への保育公開、授業参観、合同研修</li> <li>○ 小学校期の学びにつなぐ「学びに向かう力」の育成を意識した保育を推進する。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流の事前・事後の検討内容について</li> <li>○ 公開保育・合同研修の回数・内容</li> <li>○ アンケート項目③「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」</li> </ul>
--	--

中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の修了式、小学校の卒業式から互いの教職員も交流ができない状態であった。子どもの交流は全くできていない。コロナ禍のため検証しにくい状況である。</li> <li>・乾隆小学校とは互いの学校運営協議会の委員になり、日常的に情報交換している。</li> <li>・アンケート結果 ③A・B 97%無 3%</li> </ul>
自己 評 価	<p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、子ども同士の交流は全くできていない。2学期になってから紫野小学校の自由参観と乾隆小学校の人権参観に行き、昨年度の修了児の参観をしたことと、乾隆小学校との幼小連携での話し合いをもったことが教職員としてできたことである。園長と校長同士でつながりを途切れないようにはしてきた。</li> <li>・保護者アンケートから見えるのは、幼小連携に対しての期待である。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の交流は難しい。徐々に教職員同士の交流ができるようになると、これから</li> </ul>

	<p>すべき幼小連携が見えてくると思う。互いの取組を見せ合う連携に取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今できている連携と交流を発信する。また、できていないところも知らせるようにする。</li> </ul> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今できる連携と交流を考え実施する。</li> <li>・双方にとってプラスになる連携であったかを確かめる。</li> <li>・保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の場所を小学校に借りる時も、使い方を話し合って決めているようで、幼稚園と小学校の好ましい関係を続けていけるのが良い。</li> <li>・年長組が小学校の低学年スポーツフェスティバルを参観できたのは良かった。</li> <li>・幼小連携や地域との連携は保護者も子どもたちの育ちに必要であると考えている。</li> </ul>

#### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今できる交流として、乾隆小学校とは教職員レベルでの連携は満足のいく状態ではないができた。互いの学校運営協議会委員となり、日常的に情報交換もできた。他の小学校や子ども同士の連携についてはほぼできていない。</li> <li>・修了児の入学前の情報交換はそれぞれの小学校ともつようしている。</li> <li>・アンケート結果 ③A・B 94% C 6% は、</li> </ul>
自己 評 価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍、後期にできたことは、運動会、マラソン大会の会場や凧あげの場所として小学校の運動場を使わせていただいたり、小学校の造形展に作品参加させていただいたりしたことになる。造形展は互いの子どもたちが鑑賞する機会を得た。つながりを絶やさないことを考えた。</li> <li>・1年生の学習発表会は園長のみ見させてもらい、卒園児の成長を交流できた。ただコロナ禍、計画していた子ども同士の取組はほぼできていない。</li> <li>・保護者アンケートにCがあるのは、今年度、子ども同士の交流がほぼできなかったことにより、幼小連携が見えにくく、印象に残らなかつたことが要因であると考える。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の入園式に小学校から来賓として来てもらえない、また入学式に出席できないことは決まっている。どのぐらいの時期から、コロナ禍以前の交流に戻せるかは不明であるが、状況を鑑み、できることを探りつつ連携を再始動していきたい。</li> <li>・進められた交流や連携については、わかるように発信していきたい。見えにくい状況にあるからこそ発信方法は工夫したいと考える。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していた子どもの行き来が全くできなかつたことは残念であるが、コロナ禍にあり、お互いに仕方ない面があると思う。</li> <li>・一度、できなかつたことを次に始めるのは労力がいるので、教職員同士の連携がとれているのは必要なことである。</li> </ul>

#### (3) 預かり保育について

### 具体的な取組

- 社会全体で子育てを支えるうえで預かり保育が果たす役割を認識し、地域に周知するとともに、その充実を図る。
- 安心安全な環境で家庭的な雰囲気をつくる。
- 預かり保育指導計画を見直し、より望ましい活動を実施する。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- 預かり保育の参加人数とその活動内容や指導計画の見直し状況
- 新2号認定家庭の割合
- アンケート項目④「さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」  
⑫「子どもは楽しんで預かり保育に参加している」

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・預かり保育の参加人数は25人で全体の3分の2になる。新2号認定者は全体の3割である。長時間保育はそのうち限られるが、毎日数名の利用がある。
- ・ほぼ全家庭で預かり保育があることは認知されている。
- ・アンケート結果 ④A・B 100% ⑫A・B 88% C 8% D 4% (無全体の32%)

### 自己評価

#### 分析(成果と課題)

- ・入園説明会でも預かり保育の質問はよく出る。就労していても幼稚園を選択できる取組の一つである。早朝の預かり保育の希望の声は少なからずある。
- ・コロナ関係で保護者の就労の状況が変わり、前期の預かり保育利用は昨年度から減っている。2学期以降、徐々に増えてきている状態である。昨年のサッカー教室や絵本の読み聞かせについてはコロナの関係でやめている。再開については状況を見て決めたい。
- ・預かり保育については、年少組など同じ組の者がいないときに嫌がる傾向がある。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・狭い空間などで人数が多いときなど、安全面には気を遣う。預かりの担当教員と担任や保健職員など他の教職員との連携を密にしていきたい。
- ・預かり保育の内容充実のための取組はすべきなのかどうか、今後も検討をしていく。

#### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・預かり保育の内容が適切か絶えず振り返る。
- ・保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り

### 学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・預かり保育が園児を増やすことにつながる大切な取組であるのはよくわかる。
- ・幼稚園の保育を高めることは大切だが、園児数を増やすには早朝保育など、制度的な問題も多いと思う。すでに実施している園の情報を得るなどして検討してはどうだろうか。

## 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・預かり保育の参加人数は27人で全体の73%になる。新2号認定者は全体の3割である。長時間保育はそのうち限られるが、毎日数名の利用がある。
- ・ほぼ全家庭で預かり保育があることは認知されている。今年度当初、コロナの関係で就労形態が変

わる家庭もあり、前年度よりも利用が大幅に減ったが、2学期以降、利用者は増えてきた。

- ・アンケート結果 ④A・B 100% ⑫A・B 97% C 3% (無全体の 27%)

自己評価	<b>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・年度の後半になり、保護者の就労も元に戻り、コロナ対策にも慣れてくるにつれて預かり保育の利用が増えた。人数が多いときなど、安全面には気を遣う。</li><li>・預かり保育で行っていたサッカー教室や絵本の読み聞かせについては本年度いっぱい中止にした。その時だけの参加園児は園庭開放を楽しんでいた。</li><li>・年少組の子どもたちも年度の終わりになり、抵抗なく預かり保育が利用できるようになってきた。アンケートの結果からも楽しんで預かり保育を行っている子どもが多い。</li></ul>
学校関係者評価	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・人数が多く、安全面を担保するためにも、預かりの担当教員と他の教職員やボランティアの方も含め、複数での保育を取り入れた。</li><li>・入園についての問い合わせの中でも預かり保育のような制度面が多い。保育内容は気に入っているが、保育時間が厳しいという方も少なくない。その中でも、早朝の預かり保育の希望の声は少なからずあるので今後の検討課題としたい。</li></ul>

#### (4) 子育ての支援に関して

<b>具体的な取組</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 保育公開や自由参観などの教育発信に努め、開かれた幼稚園づくりを推進する。</li><li>○ 地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、子育て相談や園庭開放を実施するなど、地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。</li><li>○ 園庭開放を行うことで未就園児保護者が気軽にに入る空間づくりを考える。</li></ul>
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数</li><li>○ 未就園児保護者へのアンケートを実施する。</li><li>○ アンケート項目④「さくらんぼクラスや預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」</li></ul>

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・子育て支援に関しても新型コロナウイルス感染拡大防止策の影響を大きく受けた。幼稚園の強みである送り迎え時に、園の様子を見てもらうことや教職員と話すことについては2学期からようやく始めることができた。休日参観や祖父母参観は今年度中止にした。</li><li>・誕生会の時に行っていた「ほっこり子育て広場」も今年度中止にした。</li><li>・未就園児「さくらんぼクラス」、園庭開放も6月から徐々はじめ、2学期から通常に戻した。「回数を増やしてはどうか」のご意見をいただいている。</li><li>・アンケートから在園保護者の認知はかなり高いことがわかる。④A・B 100%</li></ul>

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の中、運動会での未就園児種目は実施できた。昨年度並みの参加は得られた。ただ、昨年度は来ていた兄弟関係のいない未就園の子どもたちが来られなくなった。再開後も、まだ参加人数は増えていない。</li> <li>入園説明会には、例年の外部からの催しを取りやめた代わりに、教職員の取組を行ってみた。コロナ禍でも可能なことを見つけられた。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児のさくらんぼクラスや園庭開放についての広報の強化を図る。HPや地域版広報誌など発信に力を入れる。</li> <li>新型コロナウイルスの感染状況を見極めながらも、直接話のできる機会をつくり子育て支援に関わる話をしていきたい。</li> <li>さくらんぼクラスの実施時間にできるだけ教職員が声掛けを行うようにしていく。</li> </ul>
	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児クラスへの働きかけや子育て支援の取組についての実施状況</li> <li>保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園の園児数を増やすことために努力しているのは理解できる。それには保育の内容だけでなく、様々な要因があると思うが、保育の内容を発信していくことは大切である。</li> <li>コロナのこともあり、直接見てもらえる機会が減ったが、色々な方法で広報していくとよい。</li> </ul>

## 最終評価

自己評価	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染拡大状況から京都府にも1, 2月緊急事態宣言が出されたが、未就園児クラスや園庭開放については感染症対策をとった上で実施が継続できた。参加数は少しずつ戻っている。</li> <li>子育て支援の取組については「ほっこり子育て広場」は未実施。西陣児童館と共に音楽鑑賞会と演劇鑑賞会は2回、未就園児対象に実施できた。</li> <li>アンケートから在園保護者の認知はかなり高いことがわかる。④A・B 100%</li> </ul>
	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>さくらんぼクラスの予定表などは前月の早いうちにホームページに載せるようにした。</li> <li>3学期にも緊急事態宣言が出た関係で、生活発表会は保護者参観にも制限がかかった。その関係で未就園児を招待することはできなかった。ただ、未就園クラスは実施したので、園での保育内容は少しはあるが見てもうることはできた。</li> <li>コロナ禍、入園説明会、子育て支援の取組など全般、計画通りにできなかった。未就園クラス毎に顔を出し、教職員に直接話す機会をもつようにした。日々の送り迎え時を活用して保護者の方とのコミュニケーションをとるように努めた。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの状況にもよるが、少しずつでも、年間当初にあげた具体的な取組が推進できるようにしていきたい。</li> <li>未就園児の保護者を含め、本園の保護者に個別に話す機会を増やしていくことは、コロナ禍でも可能であった。次年度も意識していきたい。</li> </ul>

学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者にはさくらんぼクラスの認知はされている。それが、どのぐらい他に広がっているのかが大事だと思う。</li> <li>・ホームページの活用や園児数を増やすために小規模保育施設に声をかけるのはいい事である。</li> <li>・幼稚園紹介動画を作成していると聞いたが、とても効果的であると考える。</li> </ul>
-----------------------------	--

## (5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会委員の方との情報交換や連携強化に努め、関係者評価を活用し、教育活動の改善を図る。また積極的に地域の行事に参加するなど、地域とのつながりを大切にする。</li> <li>○地域の資源を活かした指導計画を作成する。</li> <li>○自園の取組や教育内容をHPや幼稚園地域版だよりで発信し、開かれた幼稚園づくりする。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々のつながりから、地域の方の声を受け止める。</li> <li>○アンケート項目③「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」</li> </ul>

### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の第1回学校運営協議会は書面での開催とした。理事長は来賓で園に来る機会はあったが、他の理事の方については園に来てもらえたのは第2回学校運営協議会が初めてになる。今年度、地域行事も悉く中止になった。毎年の年長児の地域に出ていく取組も皆無である。</li> <li>・子ども用の織機の件で地域の方に指導をお願いしている。</li> <li>・地域女性会が取り組んでいる「乾隆学区『快適でエコな居場所づくりプロジェクト』」に参加し、新たな繋がりができた。交通安全会の方には園外保育の協力も得られた。</li> <li>・アンケート結果 ③A・B 97%無 3%</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、園に来ていただくことができない分、毎月のお便りを届け、地域で出会った時などに直接、ご意見をいただいた。</li> <li>・大きなイベントがなくなった分、地域の方と繋がりをもてるところについて考え、様々な形でのご支援を享受している。織機については地域の方の協力を得られそうである。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は乾隆小学校の学校運営協議会の委員であるので、小学校の他の委員の方との関係から地域との繋がりを保っていきたい。</li> <li>・上京区関係や乾隆学区のイベントが中止になり、年長児が参加していた行事がなくなったが、園内での取組で人前に出る機会をつくり、地域との繋がりも考えたい。</li> <li>・西陣児童館との共催での未就園児への取組は年度内に実施していきたい。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の繋がりから、地域の方の声を受け止める。</li> <li>・保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り</li> </ul>

学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全会の方など、幼稚園に対して力をいたでている方々に感謝したい。</li> <li>・今年度はコロナ禍にあり、どこまで地域を開いていくのが良いのか難しい。ただ地域誌の発行やお便りをいただけるので、幼稚園の様子がよくわかる。</li> </ul>
-----------------------------	---

#### 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回学校運営協議会は集まって開催できた。1, 2月に再度緊急事態宣言が発出され、今年度、地域行事はほぼ中止であった。運営協議会の理事の方にはお便りを届け、理事長には直接お話を伺うようしている。</li> <li>・子ども用の織機の件で地域の方にお話をいただき、地域の「織成館」の見学もさせていただいた。</li> <li>・地域女性会が取り組んでいる「乾隆学区『快適でエコな居場所づくりプロジェクト』」については今年度のまとめをし、次年度の参加も決定した。</li> <li>・交通安全会の方には園外保育のほか、年長児交通安全教室の協力も得られた。</li> <li>・アンケート結果 ③A・B 94%無 6%</li> </ul>
---------------------	---

自己 評 価	<p><b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベントが悉く中止になったため、園児が直接出向いて交流することは全くできなかつた。地域の幼稚園としての存在をアピールする場がなかったのは残念である。</li> <li>・園での行事に地域の方を招待して大々的に行うということもほとんどできていない。以上はコロナ禍のマイナス面として考える。</li> <li>・コロナ禍でもできることとして、個別に関われる地域の取組や特に織物関係については地域の方のお世話になり、特色ある取組として実施することができた。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会理事の方を中心にご意見をいただくことができたが、お便りなどの情報を通じてあって、実際に園の様子を見ていただく機会がもてなかつた。発信方法を考えたい。</li> <li>・コロナ禍であつてもできる地域とのつながりを考え、実践していく。</li> </ul>
--------------	---

学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園はコロナ禍でも、保護者の送り迎えがある。保護者も地域の一員であるので、直接意見を聞くことができる利点を生かして、地域とのつながりを保つてほしい。</li> <li>・コロナ禍でも、幼稚園に力を貸していただける方がいて有難い。次年度、自分ができることがあれば協力したいと思っている。</li> </ul>
-----------------------------	---

#### (6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<p>教職員一人一人が自分の職務に矜持をもち、生き生きと働ける職場づくりを考える。特に働き方改革について自分事として考える風土づくりを行う。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働き方改革の研修を行う。</li> <li>○会議の効率化と分掌の適正化を図る。</li> <li>○教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。</li> </ul>

(取組結果を検証する) 各種指標

- 教職員の勤務時間への意識と働く意欲（超過勤務の削減の目標値の設定）
- 年休取得率
- アンケート項目⑦「教職員は生き生きと働いている」

中間評価

各種指標結果

- ・年度当初は臨時休業から始まり、ホームページや配信メールでのお知らせ、園内の環境整備が主な仕事になった。休業中のため、年休取得も推進できた。
- ・園が再開され、子どもとの関わりでどの教職員も働く意欲をもち勤務できた。増員された職員との連携でコロナ対策の仕事も分散できた。
- ・アンケート結果 ⑦A・B 97% C 3%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・コロナ禍で教育委員会より、非常勤講師等の人員を増やしていただいた。消毒等の仕事が増えたが、特定の者に仕事が集中することは減ったと考える。また誰かが休んでもカバーし合える体制ができた。
- ・働き方改革を共通理解し、各教職員が自分の仕事を計画的に実施し、時間外に働く時間を減らすことができるようになった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後、できる行事や取組が増えてきても、各教職員が自分の仕事について1日、1週間、1月1年と計画性を意識するようにしていきたい。
- ・効率化を図るが、仕事の質を落とさないようにしなくてはならない。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・会議の効率化を含め、働き方改革を意識した勤務状況
- ・年休取得率
- ・保護者アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・コロナ関係で保育の工夫や消毒などの新たな仕事が増えたと思うが、人員を増やしてもらったのはよかったです。
- ・生き生き働く姿は、子どもの成長にも大切である。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・後期はほぼ通常の勤務となった。保育にかかる環境整備や子どもたち一人一人への関わり等の通常の仕事のほか、感染予防の取組も継続した。ただコロナ関係での非常勤職員の増員もあり、特定の者への仕事の集中は減少したように思われる。
- ・対外的には集合研修が減り、オンラインで会議することが増えたので、出張が極端に減った。校内の会議の候補日が増え、ゆとりをもった計画ができた。年休取得についての意識も以前よりもつようになってきている。
- ・アンケート結果 ⑦A・B 100% C 0%

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤システムでの残務時間の管理ができることで、自分の今の状態が見える化したことは自分事として働き方改革を捉えられるようになってきている。</li> <li>・システムの管理ができない職種の者には、管理職からの声掛けを実施し勤務時間を意識するようにした。仕事内容も明確になるように打ち合わせは効率よくできた。</li> <li>・「教職員は生き生きと働いている」というアンケート項目が高評価であった。次年度の体制が固まり次第、早急に働き方改革の研修をもちたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人に仕事が重ならないようにするために、校務分掌を決める時の配慮だけでなく、校務分掌の表には載ってこない細々とした仕事を把握、共通理解し、教職員で振り分けなければならない。自分だけでなく周りの事にも配慮する雰囲気づくりをしたい。</li> <li>・上記のことを通して、更に効率化を図っていきたい。</li> </ul> <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ関係で仕事内容が変わったところもあるかもしれないが、「教職員は生き生きと働いている」の項目が高評価なのはとても良い事だと思う。</li> <li>・人員が増えたことは、担任が子どもに関わる時間の確保の点で望ましいことである。</li> </ul>